

／番外編／

あ！こんなところにも大宮！

大宮が舞台として出て来る作品はまだまだあります。その一部をご紹介します。

No.9

『レガッタ！ 水をつかむ』

濱野 京子 著 一瀬 ルカ 画 2012 年刊行 講談社(YA ENTERTAINMENT)

浦和にある名門校に進学した飯塚有里は、父親に言われて、中学時代に打ち込んでいたバトミントン部を途中退部したことを後悔していました。そんな中、入学式でもらったボート部の勧誘ビラに興味を持ち、入部することを決心。作品後半では、有里が想いを寄せる三芳稔一と大宮の氷川神社に出かけるシーンも登場します。県立浦和第一女子高等学校ボート部がモデルになった小説です。



No.10

『裏世界ピクニック ふたりの怪異探索ファイル』

宮澤 伊織 著 shirakaba 画 2017 年刊行 早川書房(ハヤカワ文庫 9)

幼い頃に母を亡くし、新興宗教に嵌ってしまった父と祖母も事故死して、天涯孤独となった女子大生・紙越空魚。ある日、奇妙な怪異たちが潜む「裏世界」で仁科鳥子と出会い、紆余曲折しながらも互いの絆を深めていきます。ネット怪談をモチーフとした怪異が空魚と鳥子に襲いかかる、SFとサバイバルの要素が散りばめられた作品。冒頭で「裏世界」から脱出した2人が、大宮駅東口の廃墟にたどり着くシーンが登場します。



No.11

『午前零時のサンドリヨン』

相沢 沙呼 著 加藤 木麻莉 画 2009 年刊行 東京創元社

主人公の高校生・須川が一目惚れしたクラスメイトの酉乃初は、大宮駅から少し離れたレストランバー「サンドリヨン」でマジシャンのアルバイトをしていました。初は、須川が持ち込む不可解な事件を見事に解決し、マジックを使って当事者たちの心を解きほぐします。自身も過去にトラウマを抱えている初は、須川になかなか心を開くことができません……。

青春とミステリーが掛け合わされた作品です。

